

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ミューズの会

テーマ 小中学校の音楽科の授業における新たな可能性をさぐる。
～「音楽する」という視点をもとに～

取組のポイント・成果

○取組の内容とポイント

筑波大学附属小学校の研究発表会を選んだ理由は、附属小学校にいらっしゃる高倉先生の「楽しみながら音楽を学習する」考え方に惹かれたからである。ただコロナ禍において、児童同士の関わりや物の共有を防ぐ点から、今年度はコロナ禍でも楽しみながら音楽を学習できる方法について研究されていた。同じ境遇であるため、どのようにされているのかを知りたいと思い、オンラインに参加した。

また、夏には、日頃音楽の授業をどのように実施しているか、ICTを始めiPadで楽しみながら音楽を学習できる方法を互いに話し合った。

どちらにしても、コロナ禍における学習方法や、考え方、視野を広めるということを重点に研修を開くことができた。

○成果

筑波大学附属小学校の提案から、和音の捉え方や音を通して互いに気づいたことを話す大切さを学ぶことができた。音楽から分かった事実だけを話すのではなく、音楽のどの部分から分かるのか、他の仲間は同じ曲を聴いてどのように感じたのかを言葉で伝える動画もあり、実践していきたいと考えた。

夏の研修では、iPadのteamsを使って、録音したりコーダーの演奏を聴く活動ができることやアプリのガレージバンドやスクラッチを使って、電子音ではあるが音楽づくりができ、音が視覚化されるので児童にとっても面白いものであることを共有することができた。

今後の課題

今後もコロナ禍は続くと思うので、コロナ禍でもできることを見つけ、広めていきたい。また飛沫が飛ばない打楽器を用いた音楽の学習も考えていきたい。